

家庭科

1 昨年度の授業改善プランの検証 【成果（○）と課題（●）】

知識・技能

- コロナ感染症に関する対策が緩和されたため、一人で調理し、試食までを行うことができた。水が沸騰する様子や食材を加熱することで見られる変化等、一人一人の気付きがあり、実感を伴った学びにつながった。また、調理に関する基礎的・基本的な技能を身に付けることができた。
- 裁縫では、動画を見たり、繰り返し練習したりすることで基礎縫いが定着した。ミシン縫いの学習では、保護者にも指導ボランティアとして入ってもらい操作や製作実習の補助をお願いした。基礎・基本が定着したことで、その後の作品作りをスムーズに行うことができた。
- タブレットや実物投影機などのICT機器を活用し、作業の手順や方法を示したり、映像で確認したりすることによって、より確実な理解につながり、基礎的・基本的な知識や技能を身に付けることができた。
- 布を用いた製作については、能力差が見られた。個々が工夫する内容や製作過程の時間配分を考える必要があった。

思考・判断・表現

- 布を用いた製作実習においては、実物の見本の縫い目をほどいて参考にしたり、紙で模型を作ったりして、問題解決を図り、意欲的に製作することができた。
- 5年生は総合の時間で育てた米をおいしく炊くためのポイントを考えることができた。6年生では献立の立て方を学習した上で、給食の献立を考える学習を行った。栄養教諭にも授業に入ってもらうことで、より具体的に考え取り組むことができた。

主体的に学習に取り組む態度

- 学習で身に付けた技能を定着させ家庭での実践的な態度を育てるために、各題材の学習後に家庭で課題に取り組んだ。家庭実践を通して保護者と関わる機会を設けることにより、家庭生活に目を向け、家族の一員として実践しようとする様子が見られた。
- 学習活動を通して身に付けた力を、家庭生活で実践し続けようと意識する児童が少なかった。

2 授業改善の骨子

- (1) 実践的・体験的な学習活動を通して、家庭生活に関する基礎的・基本的な知識及び技能を確実に身に付ける。 【知識・技能】
- (2) 習得した知識や技能を活用して、日常生活の中から課題を見だし、解決に向けて考え、考えたことを表現する。 【思考・判断・表現】
- (3) 学習を通して、家族の一員として、生活をよりよくしようと主体的に取り組んだり、振り返ったりして、生活における工夫を考え実践する。 【主体的に学習に取り組む態度】

家庭科

プラン① 実践的・体験的な学習活動を通して、家庭生活に関する基礎的・基本的な知識及び技能を確実に身に付ける。

- ・児童が直接体験する学習活動を取り入れ、「なぜそうするのか」「何のためにそうするのか」という理由を考えさせる。実践する喜びを味わい、実感を伴って理解する学習を展開することで、一人一人が知識及び技能を確実に身に付けられるようにする。
- ・手縫いやミシン縫いについては、用具の安全な取り扱い方を理解し、活動時間を十分に確保し、繰り返し練習できるようにする。
- ・実物投影機やタブレットなどの ICT 機器を使った映像資料を活用して、活動の手順や方法等を理解させ、意欲的に学習できるようにする。また、児童用タブレットを使用し、学習活動に必要な情報を収集・整理して、目的に応じて比較し検討できるようにする。
- ・調理実習では、一人もしくは二人調理とし、一人一人の作業量や経験を増やし、技能を高めさせる。布を用いた製作では、生活を豊かにするために製作計画を考え製作を工夫する。また、実際に生活の中で使える作品を作ることで達成感を味わえるようにする。

プラン② 習得した知識や技能を活用して、日常生活の中から課題を見だし、解決に向けて考え、考えたことを表現する。

- ・児童が興味・関心をもって学習に取り組めるよう、授業の導入部分で身近な話題にふれながら生活の課題や問題点を取り上げ、児童が日常生活と学習内容を関連付けて考えられるようにする。
- ・学習の途中や終了時に自分の取組や学び方などを振り返る時間を設け、自分の考えを根拠や理由を明確にして分かりやすく表現し、児童同士で伝え合えるようにする。

プラン③ 学習を通して、家族の一員として、生活をよりよくしようと主体的に取り組んだり、振り返ったりして、生活における工夫を考え実践する。

- ・ペアやグループなどの学習形態を工夫して言語活動を充実させることにより、家庭生活の違いや多様な考えに気付いたり、全体の理解を深めたりして、主体的に学びを深められるようにする。
- ・家庭での取り組みや生活の工夫などを調べる活動を通して、児童自らが日常生活の中から課題を見だし、学習したことや調べたことを自分の生活に活用したり応用したりして、実生活での課題解決を図るようにする。その際は、学期中の決まった期間や長期休業などに継続した実践ができるようにする。
- ・習得した知識や技能が定着するように、家庭の協力のもとに実践する。その際は、保護者から感想や励ましの言葉などをもらうようにし、児童の意欲を高めさせる。